

第2回震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎） 概要

日 時：平成28年9月28日（水） 午後4時～午後6時

会 場：石巻市役所6階 第3・4議会委員会室

概 要：

- (1) 第1回「震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎）」の振り返りについて
 - ・第1回「震災遺構検討会議（旧門脇小学校校舎）」で出された意見等について確認した。
- (2) 現地視察結果について
 - ・旧門脇小学校校舎と大川小学校旧校舎の現地視察の結果、新潟中越および広島・神戸の現地視察の結果を共有した。
- (3) 旧門脇小学校校舎の現況と震災遺構整備等について
 - ・旧門脇小学校校舎の現況と震災遺構整備等に関する情報を共有した。
- (4) 会議の進め方とスケジュールについて
 - ・今後の会議の進め方とスケジュールを確認・共有した。
- (5) 震災遺構（旧門脇小学校校舎）整備等に関する協議について
 - ・協議テーマ案「遺構の活用の仕方」について意見を交換した。

会議での主な意見

- ・遺構を見ると津波を思い出し辛いという気持ちは無視できるものではないが、30年後、50年後、100年後に初めて石巻を訪れた方々へ伝えるということを一番に考える。
- ・全国や全世界中の人々から支援を受けた恩返しに、被害の現状を後世に残す。
- ・構造的な耐久性を確認したり、コンクリートの劣化状況を確認したり、耐震補強を行い、校舎内部に入り中を見せたりなど、残す際に必要な対策を考える。
- ・小さい規模で残して伝えるなど最小限の規模で残す。
- ・階、場所ごとで被災状況が異なるが、津波禍の惨状が著しい部分を遺すことで、将来にわたる震災伝承を可能にする。
- ・伝えるために新しく作ったり、市民活動を入れる器を作ったり、部分保存し施設を新設したり、資料館や研修センターを計画したり、まちづくりの施設計画と一緒に検討したりする。
- ・命を守るために人が出来ることを伝えたり、地域の魅力向上、「場」の記憶の掘り起こしを行ったり、防災教育のために活用する。
- ・体育館と校舎活用について議論する。
- ・地域活性化遺構として残し、支援の借りを返す、南浜に残る遺構や祈念公園と連携し残す。
- ・津波火災の教訓として、津波と火災の両方を残す、津波が到達した場所や火災があった場所を残す。
- ・復興祈念公園の計画では既に市民活動の重要性が位置づけられているが、遺構の整備計画策定にあたっては、実際に伝承活動の担い手となる地域の町内会や団体の参画が得られる形とする。
- ・計画を早く進める。